



# 八峰町6月議会定例会

## 町長の行政報告をお知らせします

八峰町6月議会定例会が12日から14日までの会期で開かれ、町長の行政報告や一般質問、補正予算の議案審議などが行われました。町長の行政報告の中から主なものをお知らせします。

### 各自治会などの協力のもと 八峰町防災訓練を実施

5月26日、八峰町防災訓練を岩館地区を会場に、日本海沖合で巨大地震が発生し、秋田県沿岸に「大津波警報」が発表されたという想定で実施しました。

当日は、早朝から地区の住民を始め、八峰消防署、町消防団など106名の方々から参加いただき、午前7時の本多消防団長による合図のもと、警察および交通指導隊による避難路の確保、避難指示を受けての住民による岩館生活改善センターへの避難、消防団員による避難に遅れた住民の捜索および誘導と避難した方々の確認、地域住民の皆様によるバケツリレー初期消火など火災防ぎ訓練を行いました。  
また、沿岸部の自治会においても、各自治会独自の計画による津波避難訓練が実施されました。  
訓練に参加された岩館第一・第二自治会の住民の皆様、そしてご協力いただきました八峰消防署、町消防団、警察、交通指導隊の皆様にご心から感謝申し上げます。



### 早朝から多くの町民が参加 春の全町一斉清掃

春の全町一斉清掃が4月14日に行われ、早朝から多数の町民の皆様が参加してくださいました。

例年のように、八森地区においては町内の側溝の泥上げや漂着ごみ等地域周辺の清掃を、峰浜地区においては、一部実施日を変更して対応いただいた自治会等もありましたが、地域の道路脇に捨てられている缶・ビン・ペットボトルなどを拾い集め、指定場所に運搬していただきました。  
集められたごみは、可燃ごみが約1,240キログラム、不燃ごみが約1,104キログラムで、昨年と比べると可燃ごみで約210キログラム、不燃ごみで約164キログラム増加しました。全体では約374キログラムの増加となっております。ごみの中には、家電リサイクルの対象であるテレビやエアコンのほか、自転車やタイヤ、スプレースプレーなどの不法に投棄されたと思われる廃棄物などもあり、引き続きマナーの向上や不法投棄防止の啓発を実施してまいります。

### 町内小学生を対象 サケ・アユの稚魚放流事業

4月9日、小学校4年生を対象に、

一斉清掃に参加していただきました町民の皆様にご感謝申し上げますとともに、7月13日に計画しております八森地区海岸清掃にも町民多数のご協力をお願いいたします。

### 6月議会定例会に 提出した主な議案

- 令和元年度八峰町一般会計補正予算 1億7千87万9千円を増額追加した主な歳出
  - 低所得者保険料軽減繰出金、水産物供給基盤機能保全事業費負担金、プレミアム付商品券発行事業補助金、給食センター空調機器新設に伴う設計管理業務委託料及び工事費など
- 令和元年度各特別会計補正予算
  - 八峰町国民健康保険事業 69万4千円を増額
  - 八峰町介護保険事業 879万5千円を増額
  - 八峰町簡易水道事業 151万6千円を減額
  - 八峰町公共下水道事業 2万7千円を増額
  - 八峰町診療所 8万6千円を増額

- 平成30年度一般会計及び公共下水道事業特別会計の繰越明許費繰越計算報告
- 平成30年度公共下水道事業特別会計の継続費繰越計算報告

て報告いたします。

平成30年度は、製造したホダを245万5千本販売したほか、直営ハウスの生シイタケと合わせた総販売額は3億9千万円の実績で、会社全体としては1,120万円余りの黒字決算となっております。

また、昨年4月よりホダ販売代金が、JAによる立て替え払いから生産者との直接取引となり、販売代金の入金が遅れが懸念されましたが、生産者からの入金は、多少の遅れはあったものの未収なく回収できている状況にあり、資金運用についても、借入金を活用等の確な運転資金計画を立て、支障が出ないよう取り組んできたところであります。

令和元年度は、新規就農や既存生産者による施設増はあるものの、栽培方式の変更、高齢化や雇用者を確保できないことに伴う規模縮小などの要因から、ホダ製造については、250万本の販売計画としたところであります。

また、オガ粉や燃料、電気料金の値上げなど経費の増加が見込まれ、厳しい経営が予想されますが、従業員の作業体系を変更するなどして経費削減に努めることとし、会社全体の当期利益金740万円を計上しております。

さらに、昨年から県と町との協力により、地元ナラ材を使用した栽培実証試験を実施しており遜色のない結果が出ておりますので、事業化の検討を進めてまいります。

### 心と体の健康づくりを目指して ことぶき大学開講式

6月4日に八峰町文化ホールで開催した「ことぶき大学」開講式について報告いたします。

「ことぶき大学」開講41年目を迎えた今年度は、新入生25名を含む、385名の受講申し込みがあり、うち313名が開講式に参加しました。  
受講者数は、昨年度に比べ若干少なくなりましたが、それでも町内の小学校3校を合わせた児童・生徒数、341名を上回っており、町内高齢者の皆さんの生涯学習に寄せる意欲の高さを感じさせる場となっております。

当日は、開講式に続き、家族の絆「老いを迎えて」をテーマに、劇団「河辺わさび座」による演劇を鑑賞していただきました。

脳梗塞を患う父を持つ4人家族が主人公で、父親の介護をしていた妻が突然に認知症になり、子ども夫婦は落胆し号泣してしましますが、その時、脳梗塞を患う父が認知症になった妻を励まし、俺が守ってやると話す姿を見て子どもたちも家族全員で支え合って生きることを決意し、最後は家族が一つにまとまっていくという、まさに、現実に起こりうる可能性のある内容で、参加した大学生の中には、自分と家族を重ね合わせ、涙する方も多く見られるなど、家族のあり方を考えさせられる良い機会となりました。

「ことぶき大学」では、今後も質の高い学習機会の提供に努め「心と体の健康づくり」に努めてまいります。

真瀬川の真瀬橋下流において、八峰町少年少女水産教室を開催しました。この事業は、サケマスふ化場の閉鎖に伴い平成23年度に休止となっていたサケの放流事業を平成27年度から再開したもので、当日は八森小から17人、峰浜小から22人、あわせて39人が参加しました。子どもたちは、秋田県水産振興センターの職員からサケの生態などについて説明を受けた後、約5センチメートルの稚魚2万5千尾を放流しました。

また、今年の9月に秋田県を会場に開催される「天皇陛下御即位記念第39回全国豊かな海づくり大会秋田大会」の連携事業として地元一般参加も呼びかけたところ、数組の家族連れにも参加いただき、最後に全員で記念撮影を行いました。

一方、6月5日には、水沢橋下の水沢川でアユの放流事業を実施しました。この事業は、峰浜地区で合併前から「岩子桜の里」との共催事業として実施しているものです。

この日は好天にも恵まれ、峰浜小学校の5年生26人が参加して行われました。子どもたちは、体長7〜8センチメートルの稚アユ、80キロをバケツにとりわけて水沢川に放流しました。

これらの放流事業とおし、水辺の環境保全、魚の生態や水産業に対する関心を深めていただければと考えております。

### 平成30年度は黒字決算報告 有限会社峰浜培養

有限会社峰浜培養の経営状況について

### チャレンジデー 参加率72・7パーセントで過去最高

5月29日に行われたチャレンジデーについて報告いたします。

6回目の参加となる今年度は、目標を金メダルの獲得と参加率70%の継続を掲げ実施いたしました。

本番当日は、早朝からウォーキングをする人や、ラジオ体操で体を動かす人、ゴルフやゲートボールやグラウンドゴルフで汗を流す人が多く見られ、その後も学校や職場、公園や体育館などで、スポーツや運動に取り組む姿が終日見受けられ、まさに町がスポーツ一色に染められた一日でした。

その結果、当町の参加率は過去最高であった昨年を上回る72・7%を記録しました。

一方、対戦相手である富士山が見える町「山梨県南都町」の参加率は66・3%でしたので、見事勝利することができました。

チャレンジデーに参加していただいた町内外の皆様と、実施に当たりご協力をお願いいただきました。町内事業者、各種団体や多くの関係者の皆様にご厚くお礼申し上げます。

